

NEWS LETTER

Vol.08



東北大学ナノテク融合技術支援センター ニュースレター
November, 2015
CENTER FOR INTEGRATED NANOTECHNOLOGY SUPPORT



TOHOKU
UNIVERSITY



センター長挨拶

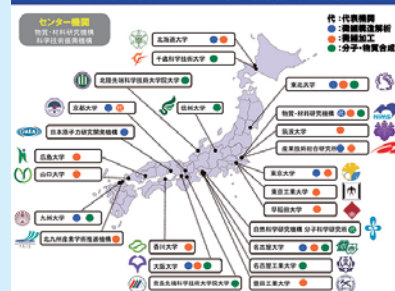
19世紀の日本が西欧的な工業社会をめざして歩んだ道は決して平坦なものではありませんでした。鉄鋼業を例にとると、大島高任(たかとう)が築いた日本最初の高炉を取り壊した後に、政府工部省がイギリスの技術指導により釜石に設置した大型高炉は1880年の火入れ後、僅か2年で通風不足に端を発する廃炉に追い込まれています。高品質のコークスの代わりに木炭を用いた操業をトップダウンで計画した当時の政府の技術的洞察力の欠如が露呈した結果でした。この状況を救ったのは民間の田中製鉄所であり、ドイツ留学から帰国した帝国大学の野呂景義を中心とするグループでした。ここでの経験が官営八幡製鉄所に向けた伏線となるわけですが、同時にこの経験は、産業革命後のイギリスが有する恵まれた環境から切り離された唐突な新鋭設備の導入は機能しないこと、すなわち技術は周辺社会経済とリンクしなければならないという教訓を後世の技術者に残してくれました。

私どもナノテク融合技術支援センターは東北に位置する門戸開放型の共用設備運用組織です。微細加工、分子・物質合成、構造解析の三分野が一体となって産業界・学界の研究開発者の方々に少しでもよいサービスを提供することが第一の任務と考えています。また地方行政の方々とも協働して地域の発展に貢献できればこれに優る幸せはありません。

今後ともいっそうのご指導ご鞭撻をお願いいたします。

ナノテクノロジープラットフォーム

ナノテクノロジープラットフォームの参画機関(全25機関)



最先端の研究設備を有する全国の大学、研究機関が一体となって設備の共用体制を構築することにより、ナノテクノロジー研究の更なる発展に寄与することを目的として平成24年からスタートした文部科学省のプロジェクトです。

センター機関の物質・材料研究機構と科学技術振興機構を核として、全国25機関が「微細構造解析」、「微細加工」、「分子・物質合成」という三つのプラットフォームを構成することにより、先端的、効率的な支援を分野横断体制で行っています。

ナノテクノロジープラットフォームHP
<http://nanonet.mext.go.jp/>